

生理学・薬理学CBT対策補習

科目責任者：神 作 憲 司（生理学）、藤 田 朋 恵（薬理学）

I. 前 文

CBTは医師国家試験に準じる重要な試験で、令和5年度から公的化された。CBT問題は、コアカリの学修目標に準拠して作成される。この中に生理学・薬理学も含まれ、その出題割合は少なくない。そこで、本科目では、生理学・薬理学の分野について補習する。

II. 受入可能人数

人数は制限しない

III. 担当教員

神 作 憲 司（生理学）、藤 木 聡一朗（生理学）、藤 田 朋 恵（薬理学）、林 啓太郎（薬理学）

IV. 学習内容

事前学習と当日の座学からなる。学生は、事前に配信された問題を講義前までに目を通し、できる問題を解答しておく。講義当日は、教員により答え合わせと解説をする。問題は、教員によりCBTプール問題集などから選ばれる。生理学1回、薬理学4回、全5回の予定。

V. 学修の到達目標

「CBTの成績が本学の定める当該年度の合格基準に達する。」

「コアカリの生理、薬理に関連する内容を習得する。」

VI. 成績評価の方法・基準

生理学：「マークシート方式の客観試験（約10問）」

薬理学：「マークシート方式の客観試験（約40問）」

出席点を合わせて、60点以上を合格とする。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

- ・クエスチョン・バンク医学共用試験CBT + 模試 2025（MEDIC MEDIA）
- ・生理学・薬理学の講義シラバスに記載している指定教科書または参考書、レジュメ

VIII. 質問への対応方法

生理学：随時受け付ける。dokkyo-physiol2@dokkyomed.ac.jp

薬理学：随時受け付ける。fujita-t@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：問題を可能な範囲で解答する（所要時間 約15分）。

事後学習：解答、解説を復習する（所要時間 約15分）。

X. コアカリ記号・番号

生理学：C-2-1～3, D-1～14-1

薬理学：C-3-3, F-2-8

※CBTの出題範囲は医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版に準拠する。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

事前学習の問題の解説は講義内で行う。試験問題のフィードバックは行わない。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	